

令和6年度 第1回 横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和6年8月21日（水） 10時30分から12時00分まで

2 場 所 横浜市役所 18階会議室

3 出席者 高橋 悠介委員、諸貫 洋次 委員、横山 直子 委員

4 傍聴者 なし

5 議事内容

議 題	<p>1 委員長の選任</p> <p>2 定足数の確認について</p> <p>3 委員会の公開・非公開について</p> <p>4 令和5年度業務評価について</p> <p>5 その他</p>
議事・ 委員意見 等	<p>1 委員長の選任 横浜能楽堂指定管理者選定委員会運営要綱第6条に基づき、委員の互選により、諸貫委員を委員長に選任した。</p> <p>2 定足数の確認について 委員数4名のうち3名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>4 令和5年度業務評価 (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和5年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。</p> <p><主な意見及び質疑応答> (以下「・」: 委員、「→」: 指定管理者)</p> <p>・能より狂言に重点を置いて教育の機会、ワークショップを設けられていることが確認できるが、令和5年度についてはどのように実施されたのか。 →令和5年度は企画公演に力を入れてしまった関係で、前年まで実施していた能の普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」などをラインナップに入れることができず、狂言に偏ってしまった。令和6年度以降は、能の普及公演を企画しているので、能と狂言のそれぞれに力を入れていく予定。</p>

・ワークショップ関係についてはどう検討されているか。
→子ども向けについては、今のところ計画していないが、大学生に向けて能のレクチャーを実施したことがあるので、今後検討していく必要はある。

・広報よこはまへの掲載がやや控えめに見えたが、横浜市との連携状況はどうされているか、今後どうされるか予定か。

→広報よこはまへは、基本的には公演等の掲載はするようにしているが、締切のスケジュールに間に合わず、対応できなかったということもあった。単独の公演だと難しいが、4月に開設した OTABISHO (おたびしょ) 横浜能楽堂では、横浜市の広報番組に繋いでいただいたり、ラジオやテレビなどへ紹介をされている。また外国人向けに発信する媒体にも掲載頂いたりといった連携しての情報発信をさせていただいている。

(事務局) 令和6年度については、OTABISHO 横浜能楽堂の開設にあたっては、横浜市の広報番組 (テレビ神奈川やFMヨコハマ) で紹介させていただいた。また、観光客向けの周知をするために同じ部署の観光振興・DMO地域連携課と連携し、横浜市観光協会へ繋いでいただいた。また、パシフィコ横浜など MICE 施設を所管している MICE 振興課とも連携し、パシフィコ横浜にも繋いでいただくことも実施した。

・番組はスポット的に実施されているということか。

→番組自体は毎週実施しているが、コーナーの枠で紹介させていただいている。

・横浜能楽堂の改修工事は、具体的にどこを改修するか再度確認させていただきたい。

(事務局) 今回の大規模改修工事の発端は、東日本大震災を発端した、天井脱落対策。具体的な工事の実施内容は、本舞台にある能舞台が横浜市指定文化財であるため、養生をし、取り壊さない状態で天井の脱落対策を実施し、安全性に関わる工事として、普遍電設備や空調設備の更新等を実施する。併せて、照明の LED 化やトイレの改修工事も実施する予定。

・本舞台に附属している舞台照明は LED 化されるのか。

→本舞台に附属している照明については、本舞台を解体しないとできないため、そのままである。周囲の舞台を照らすスポットライト等は LED 化される予定。

・天井の印象は変わるのか。

→LED 化した照明の下に天井のデザインを変えずに木格子をはめる作業をしていただく予定。

【評価する点】

・券売率や入場率、満足度が高く、古典芸能の振興に寄与する取組を実施したことを評価できる。新規顧客の獲得を積極的にしつつ、現状分析から課題解決に繋がっていることを評価する。

・人材育成の点について、次世代を担う子どもたちの目線に合わせた企画の立案がなされていると確認できる。

・趣向を変えた様々な公演を企画し、多くの来館者へ繋がるような工夫をしていることが確認できる。人選、選曲とも面白く、装束との関連展示を含め、企画力を高く評価できる。体験ワークショップや入門講座も含め、能に親しむ機会を様々な提供し、能楽、古典芸能の振興としてしていると評価する。今後も能に関する情報発信と続け市内の別施設を利用した企画の実施なども含め、能楽ファンとのつながりを大切にしていきたい。

・動画発信による新規の観客の獲得について、評価する。

・施設見学会を様々な形で実施しており、12月に実施した休館前特別施設見学会では2日間で779人の来場者があり、初めての来館者の割合が58%であったということは特に評価する。

・チケット収入と利用料金収入が予算を上回って得られたことを評価する。

【さらなる取組を期待する点】

・大学生を対象としたワークショップを実施しているとのことで、レクの様子を自分たちで撮影してSNSへ投稿していただくなど、発信する世代へのアプローチを検討してほしい。

・大規模改修工事による休館となり、施設利用者へ代替施設を案内されているとのことだが、実際に案内された施設の不便な点や、便利な点の意見を収集すると今後の運営に生かされると思われる。

・先生のための狂言講座については、大切な事業だと思うので、多くの教員の参加を促していただきたい。

・横浜能楽堂の魅力自体の発信に注力しており、媒体への露出も増加していることが確認できる。SNS活用の方針の検討に当たっては、どのように効果的な発信をすべきか、専門家にも確認いただいていると思うので、分析して今後も繋いでいただきたい。また、動画配信については、視聴数だけでなく、アーカイブとしての魅力も価値が高いので、少しずつ蓄積していただきたい。

・長期休館により収支構造が大きく転換しているため、収支バランスを考慮しつつ今後も財源を確保できるよう取り組んでいただきたい。

5 その他

(1) 休館中の事業の概要について

指定管理者から、休館中の事業の概要について説明があった。

<主な意見及び質疑応答>

(以下「・」: 委員、「→」: 指定管理者)

・初めての方が来た時に、「実際に能、狂言を見たいです。」というリクエストがあった場合はどのように案内をしているのか。

→OTABISHO横浜能楽堂の隣にランドマークホールがあるので、直近の公演がある場合は案内している。また、OTABISHO横浜能楽堂内にチラシラックを設けていて全国の能楽堂施設のチラシを設置しているので、そちらも併せて案内している。

「横浜能楽堂へ行ってみたい」というお声もいただいております、その方たちを2年後までどのようにお声を持ち続けていただけるかが課題。

・常に職員が常駐しているのか。

→バッグヤードに事務所があり、職員がいる。

・何か説明をすることもあるということか。

→基本、店舗スタッフが対応しているが、内容について、詳細を聞きたいという場合には職員が対応している。

6 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。